

10月1日(水)～13日(月・祝) ※10月7日(火)は開催いたします。

た じま しゅう ご

田島 周吾 日本画展

先生は、日本画という伝統的で少し堅苦しく思われがちなジャンルの中で、美しい岩絵具の色彩を活かしつつ、観る人が思わずクスッと笑ってしまうような、そんな楽しさを感じてもらえる作品を目指して、日々挑戦と探究を重ねながら、先生ご自身も絵を描くことを楽しんでおられます。4mを超える大作から小品まで、作家独自の摩訶不思議な世界が広がる作品の数々を、この機会にどうぞご堪能ください。



「七古堂」(127×51cm)

ギャラリートーク

■10月4日(土)午後3時から

10月15日(水)～20日(月)

すず き おさむ

人間国宝 鈴木 藏 展

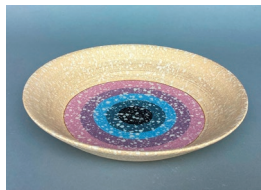
先生は1934年、岐阜県土岐市に生まれ、この地で焼かれた「志野」の研究と制作に邁進してこられました。常に時代に即した陶芸の在り方を模索し、桃山の原点を踏まえながらも、古陶の形式に拠り所を求めることなく、「現代の志野」を追求しておられます。力強さと格調の高さを併せ持つ志野茶碗を中心に、瀬戸黒茶碗や花器などの作品群を一堂に展覧いたします。時代を超えて新たな表現を切り拓いてこられた鈴木藏先生の作品世界を、ぜひこの機会にご高覧賜りますよう、ご案内申し上げます。

10月22日(水)～27日(月)

し みず いち じ

清水 一二 作陶展

丹波・立杭生まれで、現在も同地にて作陶。日本伝統工芸展をはじめ、多くの公募展でご活躍しておられます。信楽の土を用い、ピンクや紫などの背景色に抽象的な文様をくっきりと表現する色と線の均衡をぜひご覧ください。

「吹泥金彩鉢(すいでいきんさいばち)
(2025年伝統工芸陶芸部会展出品作品)」
(径32.8×高さ7cm)

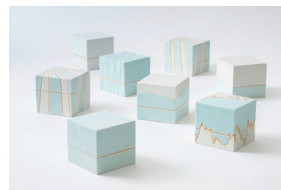
高島屋大阪店6階美術画廊のご案内 2025 9・10月

10月1日(水)～6日(月)

まつ かわ かず ひろ

松川 和弘 作陶展

河内長野で作陶を始めて20年、青白磁を中心に制作しておられます。第55回日本伝統工芸展では日本工芸会総裁賞を受賞されるなど注目の作家であり、青白磁・流流の作品から、面取りや銀彩、白磁まで幅広く展覧いたします。ご高覧よろしく願いいたします。



青白磁陶器「流れゆくもの」(各15.5×15.5×高さ14.5cm)

10月8日(水)～13日(月・祝)

ほん だ あ や

本多 亜弥 作陶展

愛知芸大大学院を修了されて故郷である奈良・天理市に戻ってこられて作陶。日本伝統工芸会の東海支部展で最高賞を受賞されるなど、その染付・彫の美しさに定評があります。美しい造形と染付、そして彫で描く大鉢など、この機会にぜひご高覧ください。



「染付彫鉢「山帰来」」(径28.8×高さ13.0cm)

人間国宝 鈴木 藏 展

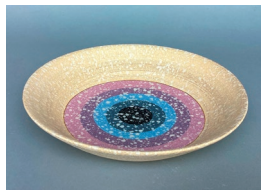
先生は1934年、岐阜県土岐市に生まれ、この地で焼かれた「志野」の研究と制作に邁進してこられました。常に時代に即した陶芸の在り方を模索し、桃山の原点を踏まえながらも、古陶の形式に拠り所を求めることなく、「現代の志野」を追求しておられます。力強さと格調の高さを併せ持つ志野茶碗を中心に、瀬戸黒茶碗や花器などの作品群を一堂に展覧いたします。時代を超えて新たな表現を切り拓いてこられた鈴木藏先生の作品世界を、ぜひこの機会にご高覧賜りますよう、ご案内申し上げます。

10月22日(水)～27日(月)

し みず いち じ

清水 一二 作陶展

丹波・立杭生まれで、現在も同地にて作陶。日本伝統工芸展をはじめ、多くの公募展でご活躍しておられます。信楽の土を用い、ピンクや紫などの背景色に抽象的な文様をくっきりと表現する色と線の均衡をぜひご覧ください。

「吹泥金彩鉢(すいでいきんさいばち)
(2025年伝統工芸陶芸部会展出品作品)」
(径32.8×高さ7cm)

やま ぐち あき こ

山口 暁子 展 -Echoes of You-

物語の中の印象的な言葉や、幼い頃の記憶をもとに、詩的かつノスタルジックなイメージを紡ぎ出す山口暁子先生。少女像、古書と小鳥、季節の花々など、絹本に表現されるその絵画世界は、観る側の遠い記憶をやさしく揺り起こし、幼き日の情景へと誘うことでしょう。



「昆虫記」(8F)



「志野茶碗」(14.0×13.2×8.7cm)

高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

10 1 WED 13 MON・祝

※10月7日(火)は開催いたします。

サイネンショーの13年

「サイネンショー 2014」
(21×29.5×高さ2.4cm)

サイネンショーとは、家庭に眠る使われなくなった陶磁器を集めて「再燃焼」することで新たなモノを作り、社会へ還すプロジェクトです。今展では、2013年からスタートしたプロジェクトを紹介するとともに、2025年に廃材を使って窯で「再燃焼」された作品の数々を展覧いたします。この機会にぜひともご覧ください。

ギャラリートーク

民藝から関係へ 一土と人がつなぐ未来ー

■10月12日(日)午後3時から

(サイネンショー代表 松井利夫氏×コミュニティーデザイナー 山崎亮氏)

10 15 WED 27 MON

※10月21日(火)は開催いたします。

まつ おか

松岡 ミチヒロ 展 Traveling Device 空想動力機構



松岡先生の創り出す空想生物たちが、時の記憶と想像力の中を彷徨いながら“旅する物語”を紡ぎ出します。粘土で創り出す作品から錆びの匂い、リベットや金属肌の重み、そしてそれらを温度のある未来の“レトロフューチャー感”をお楽しみください。

「ハシビロコウ」(15×21×高さ53.5cm)

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

10月29日(水)～11月3日(月・祝)

かな まる ゆう じ
金丸 悠児 展 一時を運ぶ者たちー

2015年の図録出版から10年の集大成としての個展です。麻布や英字新聞の断片、意図的なひび割れなどが混在するユニークなマチエールに悠久の時を象徴するモチーフ、繊細な色の重なり、さらには技法の進化もお楽しみください。



「セイメイの方舟」(30F)

11月5日(水)～10日(月)

さか い のぶ よし
酒井 信義 展 ーアトリエのこころみー

画室の一隅や富士、花や果実をモチーフに、透明感あふれる色彩と端正な造形で時間をかけて丹念に描き出された作品は、対象を取り巻く空気や時の移りいまでも画面に宿し、可視と不可視のあわいで揺れ動くような世界を生み出しています。今展では、油彩・ガッシュ・パステルによる小品を中心に、類まれな表現力をもつ画家が描く珠玉の作品の数々を展覧いたします。



「桃」(10P)

11月12日(水)～17日(月)

いわ なが
岩永 てるみ 展 ー旅のはじまりー

作家自身が降り立った海外の駅舎や鉄道風景をモチーフに、情緒あふれる世界観を描き出した作品群は、光と影のコントラストが美しい特徴的な構図で日本画の枠を超えた魅力を放ちます。母校である愛知県立芸術大学で准教授を務め、日本美術院特待として院長への出品を続ける岩永てるみ先生の高島屋では初となる個展です。



「アントウェルペン中央駅」(15号)

11月19日(水)～24日(月・休)

Unknown World
ー見慣れた光景とその向こう側ー

独自の造形言語を確立した9名の美術家による展覧会です。美術家たちが造形言語によって何を捉え、いかにして表現世界へと組み立て直したのかを読み解き、ひいては造形そのものがもつ力を味わい、鑑賞する喜びで満たされていただきたいと思います。

〔出品作家〕

秋山 陽 (陶造形) 上田 泰江 (ミクストメディア絵画) 岸本 吉弘 (油画)
木戸 修 (彫刻) 草間 結雄 (ファイバーアート) 小島 徳朗 (日本画)
児玉 靖枝 (油画) 重松 あゆみ (陶造形) 西野 康造 (彫刻)
(敬称略・50音順)

〔テキスト〕深谷 訓子 (京都市立芸術大学 総合芸術学科准教授) (敬称略) 「Uptight(部分)」(162.0×260.6cm)



「青瓷 氷裂文鉢」
(27.5×39×高さ11.5cm)



岸本 吉弘

11月26日(水)～12月1日(月)

彫刻になった生き物たち

「物事がうまいく」…午年は幸運な年と言われます。活力、躍動感、力強さ、健康、豊かさの象徴の馬をメインに木、金属、テラコッタなどの様々な素材で動物を表現いたします。お気に入りの一体を探してみてくださいませ。

平野千里「神馬」(41×19.5×高さ44.5cm)



あうん やま もと じ ろう
阿吽 山本 二郎 茶陶展

山本二郎(号:阿吽)先生は1951年京都に生まれ、1973年に京都府立陶工専修職業訓練校図案科を修了後、初代 岡田赤雲氏に師事し、京焼の伝統的な色絵技法を学びました。初個展となる今展では、京風の現代織部ともいえる斬新かつ唯一無二な作風の色絵茶陶作品を一堂に展覧いたします。



「掛分釉幾何学茶盤」
(12.0×11.0×高さ8.5cm)

か とう みつ ひで
加藤 三英 作陶展

先生は瀬戸黒の人間国宝 加藤孝造先生に師事し、黄瀬戸、織部、瀬戸黒という美濃焼の伝統作家として活躍されています。渾身の新作約50点をぜひご覧ください。



「炭化黒茶盤」(13×13×高さ9cm)

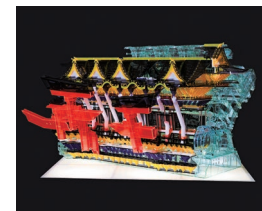
せい じ つ がね ひ と む
青瓷 津金 日人夢 作陶展

津金先生の特徴は、美しいフォルムの「青瓷」です。中国宋時代の青瓷の研究を意欲的におこない、青瓷ならではの品格を損なうことなく、自己流の現代的表現を模索しました。日本工芸会を中心に公募展での受賞を重ね、東京国立近代美術館で開催された「青磁のいま」展にて青瓷の現代作家10人に選出されております。ぜひご覧ください。

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

10 29 11 10
WED MON
※11月4日(火)は開催いたします。

ふじ た とも いち
藤田 朋一 展 JAPANESQUE



今展のメイン作品となる《1989》は、日本の神社と日本の技術の象徴、1989年のF1世界選手権において活躍したホンダ製V10エンジン、RA109Eをモチーフとしております。日本様式がアクリル素材によって近未来的に表現される藤田朋一先生の世界をお楽しみください。

「《1989》」(113×77.5×高さ60cm / アクリル板組み)

11 12 24
WED MON・休
※11月18日(火)は開催いたします。

おく だ ゆう た
奥田 雄太 展 With Gratitude



令和のアートシーンを牽引する、奥田雄太先生の待望の初個展。「当たり前」と思っていたことが当たり前でなくなる瞬間に誰もが直面する変化の激しい現代社会。当たり前の日常への感謝の花束の作品20点以上が会場を飾ります。

■レセプションパーティー
■日時：11月12日(水)午後4時から
■場所：6階ギャラリーNEXT
※レセプションパーティーはクローズイベントとなりますので一部入場を制限させていただく場合がございます。
※参加方法につきましては美術画廊係員までお問い合わせください。
「Abstract Bouquet 250805 Silver Gradation×Gold」(72.7×60.6cm)

11 26 12 8
WED MON
※12月2日(火)は開催いたします。

てん みょう や ひさし
天明屋 尚 展 千紫万紅



今展では、武者絵、神仏画、道釈画、戯絵、美人画といった古典的な画題を、アクリル絵具や墨を用いて繊細に描き上げた作品を展覧いたします。武者の眼差しに宿る覚悟、神仏の静謐な気配、道釈画に漂う思想、戯絵のいたずらな遊び心、美人画のほのかな微笑み…。画像や紙面では伝わりにくい原画の緻密さと、細部に潜む物語の数々を、この機会にぜひともご覧ください。

「剣神図」(56.4×39.1cm)

たか はし しょう じ
高橋 正治 金工作品展

鉄をコークスの火で真っ赤に焼き、ハンマーで形成していく鍛鉄の技術で作品を制作されています。スタンドグラスと組み合わせたランプや香炉、花器などのほか、今回は鳥をモチーフにしたオブジェも展覧いたします。

「ランプ」(22×22×高さ60cm)

